

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が徐々に増えている。特に冷蔵庫、洗濯乾燥機等の買換え促進が顕著に表れている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・2月の利用客数は前年比で約122%と好調である。降雪が少ないこと、天候が安定していることが好影響となっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客の気分が一転しており、消費税増税前の3月までに何でも買い求めようという動きが出ている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	単価の動き	・高額商品が売れてきている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・旧正月からさっぽろ雪まつり期間中にかけて、外国人観光客が空前的に入込となり、外国人観光客が立ち寄る店の売上は例年を大幅に上回った。一方で、東京方面の大雪の影響で、雪まつり期間中の週末に航空機の欠航が相次いだことから、高額な買物をともなう日本人観光客のキャンセルが多数みられ、各方面に大きな影響が出た。また、2月は降雪量こそ少なかったものの、低温が続き、積雪量が多いままであったことから、観光客以外の客足が鈍く、そのことが売上に影響している店も多かった。全体としてはやや良くなっているものの、伸びが鈍っている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年比101%と微増ながらも、定価品の売上は前年比108%となっている。消費税増税前に購入しようとする宝飾が絶好調であるほか、すべてのカテゴリーで前年を上回った。ただ、客単価が上昇している半面、洋服やバッグなどの販売量は若干減少している。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・店内で買い回りをする客が増えている。来客数は前年を大きく下回ったものの、来店した客は2か所以上の売場で買い上げている。宝飾品や時計、プレブランドの客単価も上昇している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月からの消費税増税を前にして、需要の前倒しが多くみられる。紳士スーツやトラベルキャリーバッグ、5月人形の販売量が伸びているほか、食品も飲料を中心に売れており、ビールなどのケース買いも目立つ。消耗品である紙製品の動きも顕著である。自転車も通学用を中心に早めの動きがみられるほか、冷蔵庫や洗濯機の買換え需要は異常値のような数値を示している。
		スーパー（役員）	単価の動き	・ここ数か月、生鮮食品の相場上昇、その他食品の値上げ等により、商品単価が前年から4～5%上昇しているなか、2月の客1人当たりの平均買上点数が前年を上回っており、来客数も前年並みを維持している。また、4月からの消費税増税を控えて駆け込み需要も起き始めており、消費はやや良い方向にある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要が始まっており、ティッシュペーパーやトイレトペーパー、洗剤等が前年の15%増で売れている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・長く低迷していた、たばこの売上が回復傾向にある。また、新商品に対する客の反応も良くなってきている。これらがけん引して客単価の回復がみられる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要により、全体的に来客数が増えており、売上も伸びている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・顧客の動きが積極的になってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の効果により、販売量が伸びている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新車の販売量が順調に伸びている。新型車効果と消費税増税前の駆け込み需要が要因となっている。一方で、中古車については、軽自動車の比率が高いため、利益率の低下が懸念される。また、車検対象車が減少しているため、サービス部門の利益も減少してきている。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・消費税増税を前にして、車の購入、納車が進んでいるなか、タイヤやオーディオといった関連用品の購入が好調である。

	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・さっぽろ雪まつりを始め、札幌モータショーや各種スポーツイベントに関連した宿泊客を効率良く取り込むことができた。国内からの旅行者、海外からの観光客ともに堅調である。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・4月の先行受注が前年比115%となっており、消費税増税後にもかかわらず好調である。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・管内を訪れるビジネス客及び観光客が増えている。特にビジネス客の動きが活発になってきている。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・客から4月の消費税増税後の旅行代金に関する質問を頂くが、それによって旅行を控えるなどの判断はみられない。ただ、旅行者が増えているとまでは感じない。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・来客数が増加しているため、やや良くなっている。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・4月の消費税増税前に分譲マンションを購入しようと買い急いでいる客が多くみられ、3月末までに引き渡しできる分譲マンションの在庫が底をついてきている。駆け込み需要は大きいですが、客の需要を満たせるだけの供給がない状況になってきている。
変わらない	商店街(代表者)	競争相手の様子	・例年であれば、2月に入ると春物に切り替えるショップが多くなるが、今年はセールを継続して、冬物売り続けるショップが目立っている。そういうショップではある程度の需要を取り込めているが、春物の動きが良いというショップは見当たらない。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・今月は消費税増税前の駆け込み需要が多く、その分を除くと決して良い数字ではない。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・2月初旬にかけて、北京語圏からの外国人団体客が例年よりも多くみられた。時期的に中心部を訪れる外国人の来街者はあまりいないが、ホテルや交通関係、土産物関連等での売上が伸びた。一方、中旬以降は外国人観光客が減少したほか、地元客の外出控え、買い控え等により来街者が減少し、全体的には例年並みであった。ただ、地元百貨店の地下食品売場の夕方における来客数が微減しており、そのことが懸念材料となっている。
	一般小売店[土産](経営者)	お客様の様子	・当地では、雪あかりの路というイベントが2月7日から16日までの10日間にわたり開催されたが、期間中の週末が2週とも全道的な大雪となり、交通機関が乱れたことから、売上にマイナスの影響が相当みられた。
	一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・観光客の入込は順調だが、飲食店など、当店の商売に直結するような業種の売上にはなかなか結びついてこない。一方、街の雰囲気にもぎやかで活気が出てきているが、それが売上、販売量につながらない。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・今年は前年よりも2~3週間早く春物を投入したが、特に動きはみられず、ほぼ前年と同様の動きであった。消費税増税前の駆け込み需要については、今月の時点ではまだ動きがみられない。
	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・消費税増税前だから買っておくという言葉が客から聞かれるようになったものの、大量に商品を買うような動きはみられず、化粧品等の必要なものを若干多く買うという程度である。客の財布のひもは相変わらず固いままであり、売上への影響はほとんどみられない。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・2月に入ってから天候不順の日が多く、特に中旬以降の低温、降雪が直に影響していることで、来客数のマイナス傾向が続いている。ただし、買上率や客単価はプラス傾向となっているため、全体的には上下動が少なく堅調に推移している。
	百貨店(役員)	来客数の動き	・今月は中旬から良い天気が続く、暖かくなってきたこともあり、自転車等が例年よりも早く動き出している。消費税増税前の駆け込み需要はまだ実感できていないが、高額ベッドが動き出しているなど、高額家具の動きが少し良くなっている。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数は前年並みとなっているが、販売量が前年を下回っている。消費税増税にともなう駆け込み需要は少しずつ出てきているが、まだまだ景気が良いとまでは言えない。
スーパー(企画担当)	お客様の様子	・4月の消費税増税を前に、食料品や日用品の買いだめ需要がみられ、客単価が上昇し、売上が増加している。ただし、4月以降は相当な反動が懸念される。	

	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・生鮮品は前年並みの売上を維持しているが、酒、たばこといった免許品の売上が大きく減少しており、総売上も前年比マイナスとなっている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今月前半はソチオリンピックがあったことで、消費者の気持ちが高まり、景況感も良かったが、月半ばに暴風雪による交通まひが2日間続いたことで、消費者があまり街に出てこなくなった。売上も前年を下回ってしまった。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・消費税増税前のにぎわいがあまりみられない。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べてコンパクトカーの受注が少し伸びている。しかし、セダン系の車種や2000CCクラスの車種の動きがぱったりと止まった。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・今月前半は、例年になく大雪の影響もあり、売上が前年比で2けたのマイナスとなったが、後半からは盛り返し、月全体では前年並みであった。月全体をとおして、来客数が増加しているものの、客単価が低下している傾向にある。現在、客単価アップに向けた対策、4月からの消費税増税対策を検討している。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・4月からの消費税増税や各種公共料金の値上げなどを控えての駆け込み需要は、特需であるため、実際の景況感としては分からない面がある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・2月は下旬まで例年よりも寒い日が多く、さっぽろ雪まつりの人出も前年よりも多かったが、タクシーの売上は前年並みであった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・雪が多いという天候の影響もあり、3か月前と比較して売上が若干上向いている。ただ、前年比では、依然として前年よりも1%ほど下回っており、状況に大きな変化はみられない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月はイベントも少なかったため、タクシーの売上は減少傾向にあり、3か月前の売上と比較して、約2%の減少であった。しかし、雪が多かった前年の売上とほぼ同じであったことから、景気は変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・売上の前年比をみると、前年の暮れと今月の状況にほとんど変化がみられない。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・消費税の増税対策として、家電や家の修繕といった支出額の大きなものへの出費が多くなったことで、普段の日常的な消費が後回しになっている。美容への出費についても控える客が多くなっている。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して、それほど天候が悪くなく、流氷の影響もほとんどないため、順調に運航できている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・当商店街は来街者の多い商店街だが、今月は通路の凍結が厳しく、歩行困難な状況が続いていることで、来街者が減少している。クリアランスセールも不発に終わっている。アジア系の観光客の入込もみられるが、寒さのためか、観光ルートでの行動にとどまっており、夜の飲食店の客足はまばらである。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上低迷のなかで箱売り単位でのセールが好調であった。販売量は前年比95%だったものの、客単価が伸びたことで、売上は前年比96%となった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・平日の夜の売上が悪いほか、週末も客単価が下がっており、売上は前年を下回った。元々、社員の若年層はあまり多くなかったが、このところ、すっかり来店しなくなっている。各ホテルではラウンジやコーヒーショップの来客数が減っており、食べ控えも広がっている。一方、料理教室では単価を下げて来客数が減ったと聞いている。
	観光型ホテル（経営者）	それ以外	・エネルギーコストを筆頭に原材料価格が上昇しており、収益が低下している。外国人旅行客数は続伸しているが、国内旅行客の動きが鈍く、客室の定員稼働率が低下しているため、売上効率が悪化している。
	通信会社（企画担当）	単価の動き	・競合他社との値下げ合戦が過熱し、客がさらなる割引を期待して買い控えをしたり、見た目の値下げ額の大きい競合他社に買い換える動きが増えている。
悪くなっている	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前には消費が悪すぎる。医薬品のインターネット販売のあおりがすでに訪れているような静けさとなっている。

		スナック（経営者）	来客数の動き	・入出がない。
企業 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で受注が増加している。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・労務者不足や単価高騰により新規受注に消極的だった建設会社が、既に受注した工事の進捗よくとともに先が見通せるようになったことで、選別しつつ新たな受注を目指す動きが加速している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事の増加で建設業界は堅調であるが、人件費の増加や資材価格の上昇から利益率は低下している。中華圏の春節とさっぽろ雪まつりなどの各地の主な冬のイベントが重なったこともあり、外国人観光客が増加しており、観光関連業種は好調である。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響もあるが、受注量が増えてきている。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・景況感はやや良いが、景気が好転してきたからという理由での設備投資的な案件は極めて少ない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・取引先において決算に向けての数字が固まりつつあるが、好調に推移している取引先が多い。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ものづくり補助金に採択された案件の納入を多数充当できたことに加えて、顧客である鉄工関連業の仕事量が多かったことが重なり、今月の業績は良かった。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・単価の高い商材の荷動きが悪くなってきている。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量の変化は特にみられない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・生乳の減産が深刻化している。天候不順の影響で牧草の出来が悪く、配合飼料でカバーしている分、経営コストがアップしている。また、所得確保のため、乳牛の種付けが減っており、後継乳牛の不足が懸念される。酪農家の離農も増えているため、乳牛の受け皿として農業生産法人が設立されている状況にある。2014年度の生乳生産量は前年から1.5%減少の735万トンが見込まれている。
輸送業（支店長）		受注量や販売量の動き	・来年度に向けての引き合いが増えてきているが、足元は大きく変化してない。	
司法書士		取引先の様子	・北海道特有の時期的な影響により、多少下向気味となっているが、大きな変化はみられない。	
司法書士		取引先の様子	・不動産取引の契約成立件数が少ない。冬期間という理由も考えられるが、例年よりも動きが鈍く、景気回復の兆しがあまり感じられない。	
司法書士		取引先の様子	・土地の売買、建物の新築、増築工事が減少したままである。	
雇用 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・現在、行政から受託して、失業者への就職支援事業を行っているが、その就職率がここにきて高まっている。求人数も増加傾向にあり、およそ6割が就職できているなど、就職環境が以前に比べてかなり良くなっている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・2月はさっぽろ雪まつりの効果もあり、特にホテル業界や飲食業界が活況を呈している。また、事業所数の多いコールセンターの人手不足はさらに深刻になってきている。個人消費関連については、消費税増税前であるものの、大きな変化はみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から16.7%増加し、48か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から16.5%増加し、48か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ほぼすべての業種で求人数の増加傾向が続いている。
職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求職者数が減少しているなかで、就職件数が5か月連続で増加している。人手不足感がみられる企業の採用意欲が高まっていることが要因である。		

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人数が増えているようにみえるが、不人気の職種も多く、なかなか充足しないため、結果的に雇用数の増加につながっていない。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求職者数の動き	・ 建設、土木から始まった人材不足感はサービス業にまで拡大している。求職者数の減少が求人のリピートにつながっており、人材確保が厳しい状況となっている。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・ 求人広告件数は堅調な伸びを示している。飲食、コンビニ、スーパー、建設、介護などの募集意欲が高い。ただし、景気が良い、売上が伸びている等の声はほとんど聞こえてこない。
	職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・ 1月の新規求人数は前年を16.9%上回った。新規求職者数は前年を11.4%下回った。月間有効求人倍率は0.87倍となり、前年の0.73倍を0.14ポイント上回った。しかし、新規求人のうち、正社員求人の占める割合は43.7%と低く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	新聞社[求人広告] (担当者)	求人数の動き	・ このところ2けたの伸びがみられていた募集広告の売上は、前年比100.2%とほぼ横ばいであった。要因を特定することはできないが、雇用環境が以前よりも悪くなっていることはなく、医療、派遣、小売、土建不動産、飲食といった上位業種の顔ぶれも変わらない。
悪くなっている	-	-	-